

# NEWS!

Vol. 43-1

No. 211

令和6年新春号

編集・発行

松浦機械製作所

## 謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年は、5月に新型コロナウイルスがインフルエンザ同等扱いの5類に移行し、過去3年余り続いたコロナ感染対策は大きな節目を迎えました。これを受け、社会生活・経済活動も本格的に通常状態となつて行き、製造業も漸くほぼ不自由なく事業活動が出来た一年となりました。私自身も春から海外出張を多くこなし、お客様への訪問を中心に各地域に足を運ぶことが出来ました。

一方、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が現在2年近く経過し終結の道筋が未だに見えず、また10月にパレスチナのガザ地区からイスラエルへのロケット弾攻撃から始まったイスラエル・パレスチナ間の紛争が新たに勃発しました。これら混沌とした両地域の紛争から政財共に世界は大きく影響を受けています。引き続き生活物資や電気・エネルギーコスト、インフレ抑制のための政策金利等々、世界的に物価の高止まりが見受けられ、大幅な円安と相まって日本は輸入コストの上昇を余儀なくされています。また中国のバブル経済崩壊の影響が製造業に与えるインパクトも大きく、依然と続く米中の緊張関係と相まって世界経済の先行き不透明感が強く浮き出ており、切に平和と安定化を願う次第です。

日本工作機械工業会が設定した目標年間総受注額1兆6,000億円に対し達成しづらい傾向にあるとは言え、2023年10月末時点での月受注1,000億円超は33ヶ月連続と続いており、設備投資は調整局面の中で横ばいの動きながらも底堅く推移しました。

そんな環境下でマツウラは、主要展示会となるドイツ・ハノーバーで開催されたEMO2023、名古屋のMECT2023メカトロテックジャパン2023に出展しました。ユーザーインターフェースを10年ぶりに刷新し直感的な操作性とプロジェクトデータ一括管理を実現した新オペレーティングシステム **MIOS4** を搭載した新機種 **MAM72-42V PC32** を両展示会に、欧州は初出展しまして、多くの来場者の方々には実機を通して使い易さを体感していただきました。欧州市場は横形機のニーズも根強く **H.Plus-405 PC6** も展示。こちらも自動化対応機として大きな注目を浴びました。また名古屋では、**MIOS4** を搭載した新型 **MX-420 PC10** も展示し、展示ブースは来場者の活気に溢れ、お陰様で大変盛況な展示会となりました。

さて新年を迎えるにあたり、本年は武生工場の拡張工事が本格的に開始され、通常業務を遂行しながら、同工場への機械及びスピンドル組立業務の統合・集約の準備を実施致します。次世代に繋ぐ技術開発と製造工程の効率化・品質の強化に努めながら、これからもお客様に選んでいただけるよう尽力して参ります。

本年も格別のお引き立てを賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

代表取締役社長 松浦 勝俊

## 日本のへソ

### 福井 No.209



福井は日本のドマン中「日本のへソ福井」第209回目は「ふくま大学」の話です。2020年に福井商工会議所、福井県、福井市が連携し、「県都にぎわい創生協議会」が設立されました。同会をはじめ、経済界と行政が一体となって議論し、2040年にかけて実現したい福井の将来像などをまとめた「県都グランドデザイン」を策定。県都グランドデザインの具体的な施策の1つとして、2022年からふくま大学準備室、2023年よりふくま大学として事業が始まりました。

同事業は、福井市中心部をキャンパスとしてとらえ、市民参加型のプロジェクトです。本プロジェクトは、楽しみながら双方向の学び合いが生まれるまちの学び舎を目指し、講座

への参加だけでなく、福井で講座を企画開催できる場とすることも目的としています。講師は「せんせい」と呼ばれ、まちな楽しみ方を広げる講座をひらいてみたいという方が自由に応募し講座を開けるようになっています。

2023年12月には、同事業初の大型イベント「ふくい学都祭」が開催され、「持続可能性」「文化・スポーツ」「対話」をテーマとした7講座が福井市中心部の各所にて開かれました。「対話」がテーマの講座では、マツウラOBの上村誠さんが対話型アート鑑賞学科を開講。アートマインド® コーチング Advanced 認定コーチの資格を持つ同氏より、アート作品を通じて対話することで「自ら問いを立てる力」、「自分なりの答えを導き出す力」そして「問題発見能力」を伸ばす手法が伝えられました。

ふくま大学は楽しみながら学び、新しい出会いを生む面白い試みであると思います。何かを伝えたいという方はふくま大学でぜひ「せんせい」になってみてはいかがでしょうか。

# ユーザーを訪ねて

No. 196

## 株式会社 日昇テクニカ 大企業と中小企業の「狭間」を狙う

今回のユーザーを訪ねては名神高速道路の彦根ICから車で5分の距離にある、株式会社日昇テクニカです。同社では半導体製造に欠かせない光学機器部品や、自動車のワイヤーハーネス検査機器などを主力として、様々な分野に向けた金属・樹脂の加工を手掛けています。従業員数25名の少数精鋭でありながら、設計から製造・組立・検査まで一貫通貫で対応できる柔軟性を武器に、多様化する顧客ニーズに対応してきました。「いいモノを、納期厳守で削る。」というスローガンは同社のモノづくりの精神を端的に表しています。



▲ 株式会社日昇テクニカ 外観

取材には一圓直基 代表取締役社長にご対応頂きました。一圓社長は2003年に同社に入社、2019年に現職に就任されました。現在に至る経緯について伺ったところ、入社に際してはとある「事件」があったとのこと。「当社は私の父が創業した企業で、私も高校生くらいの頃から漠然と家業を継ぐことを意識していました。そのため、大学でも経営学を専攻しましたが、当時父からは『お前は前前の人生であり、自社への入社は全く考えていない』と言われていました。そのため氷河期真っ只中の就職活動を経て、2社から内定を頂きました。うち1社に入社を決めたことで残りの学生生活を謳歌していたのですが、卒業直前に『事件』が起きました。内定先への入社を直前に控えた3月中旬、入社予定だった企業に父が勝手に内定辞退の連絡を入れたのです。またそれだけでなく、4月から専門学校への入学を半ば強制的に決めていました。この時は言葉にできないほどの衝撃を受けましたが、卒業後の進路が断られた以上、専門学校に入学するより選択肢はありませんでした。専門学校で約1年間、旋盤やマシニング加工、プログラミングの基礎などを学んだ後、当社に入社しました。結果的に父の敷いたレールに乗せられた形ではありますが、図面の読み方すら理解していなかった当時を振り返ると、家業を継ぐうえで必要なプロセスであったのだと思います。」と一圓社長。

### 退職金替わりの旋盤

「私の入社経緯もそのひとつですが、父には尖ったエピソードがいくつかあります。」と語る一圓社長。創業当時についても話を伺いました。「父は元々、名古屋の大手陶磁器メーカーに勤務していましたが、体調を崩したことをきっかけに地元の滋賀に戻りました。当初は従業員5〜6名の旋盤加工の会社に勤めましたが、職人気質で他人の下に付くことが性に合わなかったようで、後に独立し1977年に当社を創業しました。独立の際にも『退職金は要らないので目の前のコレ（旋盤）が欲しい』と、当時の勤務先から旋盤を譲り受け、それを実家の小屋に置いて事業をスタートさせました。創業当時から、現在も主力である半導体関係を中心に金属や樹脂の加工を手掛けていたそうです。」と一圓社長。



▲ 一圓直基 代表取締役社長

### お客様との約束は絶対

「当社では、製造業の要とも言えるQuality（品質）・Cost（コスト）・Delivery（納期）のうち、特に品質と納期を死守しています。その分、コストは相応に高くなる点をお客様にはご理解頂いています。」とご自身の信念を語る一圓社長。それを象徴するエピソードがあります。「とある製品で、当社の設備トラブルのため納期に間に合わない恐れが生じました。何とか間に合わせるため、完成後すぐ製品を持って飛行機に飛び乗り、滋賀から岩手のお客様まで、私自身が製品を手渡しに伺ったこともあります。価格にして15,000円ほどの製品であったためお客様は大変驚かれましたが、お約束した納期は絶対です。信頼を崩すのは一瞬ですが、一度崩した信頼を取り戻すことは困難です。今日まで積み上げてきたお客様からの信頼は、このような姿勢に下支えされているように思います。」と一圓社長。

## 柔軟性

### 1ヶ月足らずで軌道に乗った

創業以来、積極的な設備投資に取り組んでいる当社では、NC旋盤やレーザー加工機など様々な設備機を有しています。なかでも主力であるマシニングセンタは現在20台が稼働しており、その内の一台が2023年3月に設備した5軸制御立形マシニングセンタ **MX-420 PC10** です。当社にとって初のマツウラ機、そして初の5軸機の設備に至った経緯を伺いました。「当社では私の入社以前から、立形を中心に複数のマシニングセンタを設備してきました。新たに5軸機を検討した目的は『効率化』に尽きます。若者の新規雇用は年々困難になり、また近年の物価高も拍車をかける形で、効率化は大きな課題でした。そんな中、割り出し5軸加工による工程集約に魅力を感じるようになりました。段取りの効率化は工数削減と同時に精度の向上にも繋がります。マツウラ機の設備を後押ししたのは性能に対してリーズナブルな価格と、ファナック製NCの存在です。既存の立形機でもファナック製NC搭載機を使用していたため、現行の加工プログラムを上手く応用すれば、割り出し加工にもスムーズに対応できるのでは、と考えたのです。結果的に狙いは当たり、設備から1ヶ月足らずで軌道に乗せることが出来ました。担当してくれているマツウラの営業マンも『ひと月でここまで稼働している例は珍しい』と驚かれる程です。」と一圓社長。



▲ 2023年3月設備の **MX-420 PC10**

### 3面イケール活用による工程集約

**MX-420 PC10**は立ち上げ当初から効率化に貢献している、と語る一圓社長。現状の活用方法についても伺いました。「鉄やアルミ、樹脂など幅広く加工していますが、直近ではSK材をはじめとする工具鋼の加工ニーズが高まっています。これら当社の中では比較的量産性の高いワーク

## 株式会社 日昇テクニカ 概要

本 社 〒522-0025  
滋賀県彦根市野田山町718番地-14  
TEL 0749-23-8886  
FAX 0749-23-0837

代 表 者 代表取締役社長 いちえん なおき 一圓 直基

創 業 1977年

従業員数 25名

事業内容 光学機器部品、ワイヤーハーネスチェッカー、医療機器部品、油圧機械部品、精密機械部品などの製造

ですが、3軸機では治具を用いた斜め加工が必要であったため、5面同時加工による工程集約の恩恵は特に大きかったです。当該ワークの加工にはバイスを3点搭載したイケールを用いています。現状は10パレットのうち5パレットにこの3面イケールを載せています。将来的に受注が増加した際にも、10パレットすべてに3面イケールを載せれば十分対応できるでしょう。また現在は複合旋盤で加工している丸物加工についても、スクロールチャックを使用し **MX-420 PC10** に対応できないかとも考えています。5軸機の導入により効率化の可能性は各段に広がりました。」と一圓社長。



▲ 工具鋼の加工に用いる3面イケール

### 柔軟性が活きる『狭間の領域』

取材の最後に今後の展望を伺いました。「当社の強みはフレキシブルに動いて小回りが利く事です。小規模ゆえの柔軟性を活かせる領域とは何か、と常に考えていますが『大企業ではあえてやらない、中小企業では出来ない、ちょうど狭間の領域』を担うことがひとつの答えではないでしょうか。大企業では豊富な資金力があるにもかかわらず採算が合わず避けるような、かつ中小企業では技術やリソース不足から手に負えない、そのようなニッチなニーズを積極的に取り込んでいけば、業界の中でも唯一無二の存在になれると考えています。」と一圓社長。

\*\*\*\*\*

「当社では兼ねてよりIT化を進めてきました。主なところでは徹底的に現場目線でカスタマイズした生産管理システムなどが挙げられます。また従業員の平均年齢の若さも特徴的です。36〜7歳が中心で、現在43歳の私が平均値を引き上げているようなものです。当社の強みである柔軟性を活かすうえで『IT』と『若さ』は大きな武器になっています。」と一圓社長。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取りご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



# MECT 2023

## メカトロテック ジャパン 2023

### マツウラ出展レポート

2023年10月18日(水)～21日(土)の4日間、ポートメッセなごやで開催されたメカトロテックジャパン2023。「FEEL IT! 工作機械の迫力を さあ、会場で。」をテーマに掲げた今回は、出展社数、出展規模ともに過去最高となる490社・団体、2,101小間での開催となりました。4日間の総来場者数は77,225人と前回は上回る盛り上がりを見せました。



マツウラブースの目玉となった**MAM72-42V PC32**及び**MX-420 PC10**の実機展示は多くの来場者の注目を集めました。新たに搭載されたオペレーティングシステム「**MiOS4**」の使用感をはじめ、マツウラ機の操作性を来場者の皆様にご体感頂きました。



商談スペースも大盛況となり、松浦勝俊社長や「しつちょう」こと松浦取締役がお客様をお迎えしました。



ブース側面に設置した150インチの超大型ディスプレイは、一際注目を集め、多くの通行人が足を止めました。



会期中には来年入社予定の採用内定者や、2023年度のインターンシップ参加学生を招待し、工作機械業界の熱量を体感頂きました。



展示内容の詳細は「AfterMECT2023」特設ページにて12/20(水)まで公開しました。なお、会期中の様子をお伝えした「デイリーレポート」は特設ページの公開終了後も、営業サポート 塚本のX(旧Twitter)からご覧いただけます。



塚本涼太@松浦機械製作所  
@MMC1169



## 動画コンテンツのご紹介

マツウラYouTubeチャンネルでは、当社の新しい取り組みを常に発信しております。本誌では、新しく公開した動画の中から2件を紹介いたします。

### 【マツウラ最新自動化設備】 スマートライン全容公開



1987年に設備された自社設備「**BIG-MAM**」の老朽更新に伴い、さらに進化した自動化・省人化コンセプトを実現した製造ラインが「スマートライン」です。スマートラインは最新技術を活用した最小限のダウンタイムを目指す設備であるとともに、マツウラが開発した最新機能や周辺機器をテストする場にもなっています。動画ではIoTの活用、自動化機能、最新のクーラント管理、予知保全などシステムの全容をご紹介します。英語verの動画では、“This is the future!”などの感想コメントが寄せられていました。

### 【マツウラ独自のモニタリングシステム】 工場全体の『見える化』で生産性向上



マツウラが独自に開発したモニタリングシステム「**Matsaura Remote Monitoring System**」、通称「**MRMS**」についてご紹介します。**MRMS**では、監視、履歴、段取支援の主に3つの機能で工場全体の見える化を行い、継続的な生産性の向上をサポートします。動画内では、3機能について簡潔に説明するとともに、実際の操作画面を示しながら**MRMS**の使い勝手も一部ご覧いただけます。あなたも**MRMS**で機械の稼働監視を行うことで、さらなる生産性向上を目指しませんか？



取締役 松浦 悠人



先日、アメリカにて**MAM72-35V**を新規に導入されたお客様が書かれたブログを見つけました。「**MAM72-35V**がいかに我々のビジネスを変革したのか」というタイトルです。導入前後の比較で、どれくらいの対応能力の変化があったのか、仕事において何が可能になったのかということが具体的な数字とともに書かれていて面白かったです。

- ・ 3週間ぶりの加工依頼が来て、一日で対応が可能
- ・ 量産を流していても特急案件も受けられるように
- ・ 行き戻りの多い試作でも安心

ビジネスが大きく変わった。そんなことをおっしゃっていただけるマツウラユーザーの方がいらっしゃいま

す。この言葉のインパクトとは裏腹に、具体的にどう変わるのかというのは実はあまりよく分かっていませんでした。なるほど、試作の加工はそういう世界なのか。柔軟性の確立とはこういうことを言うのだな。わたしは松浦機械に入社して丸5年を昨年の9月に迎えましたが、まだまだ学ぶことは多そうです。

今年度は、尽力しています基幹システムの入替の要件定義フェーズを終えるため、もう少し社外活動の時間を持てそうです。もし、皆様のもとに訪問させていただく機会がございましたら、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。ちなみに、冒頭で紹介したブログについてご紹介と和訳の掲載の許可をいただきましたので、以下のリンク先にて紹介しております。もしよろしければご覧ください。本年も皆様にとって良い年でありますようにお祈り申し上げます。

[https://note.com/yuto\\_matsuura/n/679970098394](https://note.com/yuto_matsuura/n/679970098394)



## 海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツとして発信しております。本誌では、配信中の動画の一部をピックアップしてご紹介します。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。



Superstar Components社 イギリス

### 自動化で叶う ワンマン加工工場 - H.Plus-300



Superstar Components社のオーナーであるWilkinson氏は元々自転車の部品加工会社で働いていましたが、新たに部品加工ビジネスを立ち上げました。

起業に際し「一定の生産量が求められるが加工が複雑な部品」というニッチな需要に対応するビジネスモデルを検討しますが、これにはスマートな自動化が必要不可欠であったとのこと。

驚くべきことにWilkinson氏は工場内のすべての機械オペレーションをたった一人でこなしています。これを可能にしたのは3台のマツウラ機を含めた工場内の自動化推進で、徹底的に自動化を追求した彼のビジネスは見事に成功しました。



動画では**H.Plus-300**をはじめとしたマツウラ機を「1台で10~15台の仕事ができる」と評価するWilkinson氏が、自身のビジネスにおけるマツウラ機の必要性を語っています。



JDM Machining社 アメリカ

### 利益を生む機械 - MX-520



JDM Machining社は「医療系部品の聖地」と言われる米ミネソタの地で、高精度な金型や機械部品を製造するジョブショップ形式のお客様です。

厳しい精度要求に加え、単品部品や短納期の依頼も多い医療業界において存在感を示す同社は、1台の機械から事業をスタートし、この20年間で30台もの設備機を抱える企業へと成長しました。その内の2台が2020年と2022年に設備した**MX-520 PC4**です。



2020年に設備した1台目は設備から間もなく、他社のテーブル5軸機の3倍の稼働時間を稼いだとのこと。1台目のマツウラ機で大幅な効率化を達成した同社では、2022年に更に2台目を設備しました。



動画では2台の**MX-520 PC4**を担当するオペレーターのMoench氏から、マツウラ機の精度やパートナーシップを結ぶ代理店のサービス体制についての評価が語られています。

# 武生工場拡張工事 起工式



▲ 拡張後の武生工場完成予想図

2023年12月8日(金) 越前市のマツウラ武生工場において、拡張工事の起工式を執り行いました。

爽やかな晴天に恵まれた当日は、プレス向け説明会として地元テレビ局や新聞社、業界関連出版社など複数のメディアをお迎えし、松浦社長ならびに高橋取締役より、工事概要や新社屋の構想についての発表を行いました。説明会の終了後は新工場棟の建設予定地にて地鎮祭が執り行われ、マツウラおよび工事関係者が参列のうえ、工事の安全と順調な進捗を祈念しました。

本年12月より着工となる拡張工事は2024年12月に完了、マツウラの創業90周年にあたる2025年1月より新工場棟の稼働開始を予定します。



## シングルorダブル 次世代に繋げる



社長 松浦 勝俊

本表紙の年始のご挨拶にも触れた通り、武生工場の拡張工事が2024年末完成を目指し本格化します。これは、機械組立工場棟とスピンドル組立・厚生施設棟の2つの建物で構成されており、機械とスピンドル組立拠点が武生工場の一箇所に統合・集約され、創業

90周年となる2025年1月より稼働開始予定で進んでおります。最適レイアウトのスピンドル組立工程と拡大された機械組立のスペースを有効活用して、生産効率を向上しリードタイムを短縮して市場からの要求の多い自動化パッケージ機種を生産台数に柔軟に対応しながら20%の機械増産を目指します。

これに伴い本社の組立部門が武生工場に移動し、一体となって組立作業の技能伝承や体系的な技能教育に力を入れることで作業効率と品質の向上に取り組みます。厚生棟には、カフェテリア風の食堂など福利厚生施設を充実させ、ゆとりある職場環境を実現します。

一方本社工場においては、空いた機械組立のスペースを主に資材・物流業務に当て、組立部門の一本化集約と工場拡張による供給量増の対応に活用します。加

工部門は、導入済み本格稼働中の**MAM72-100H**と2台の**H.Plus-630**と自動洗浄・バリ取りロボットで構成されたスマートラインや大型立形複合旋盤加工機に加えて、大型5面加工機の入れ替えや精密研削室の自動化機への更新導入を随時実施して加工部品供給量の増加を図ります。

また基幹業務を統合し効率化と情報の一元化を図る基幹システム(ERP)と開発設計から製造、アフターサービスまでを統合管理する技術情報管理システム(PLM)を10年強振りに更新し、2026年本格稼働予定で進めて参ります。部品表段階からの構成を見直し、仕様変更に伴う手配部品の納期変更等に適切に対応する現在のビジネススタイルに合ったシステムの構築を目指します。現在どこまでシステムで自動化するか等々の一番大事な実装を視野に入れた要件定義フェーズに入っております。

これら一連の投資や検討は、お客様に選ばれ続けるために、そのどれもが欠けることなく全て密接にリンクしており、長期的視野に立ったお客様との繋がりを構築できるものであらんとしております。

未来を見据えマツウラの次の世代にしっかり繋ぐためにも、引き続き選ばれる理由にこだわってお客様のご期待に応えられるよう精一杯努力して参ります。

# お知らせ

## 1 2024年度 松浦機械製作所暦

(■は休日)

1	2	3	4
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5	6	7	8
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9	10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

## 2 2024年度マツウラスクール開催日程

開催予定月	日 程	スクール内容
1 月	16日(火)～19日(金)	基礎コース
2 月	6日(火)～8日(木)	5軸加工コース
3 月	5日(火)～7日(木)	高速・高精度コース
4 月	9日(火)～11日(木)	5軸加工コース
5 月	7日(火)～10日(金)	マクロコース
6 月	11日(火)～13日(木)	5軸加工コース
7 月	9日(火)～12日(金)	基礎コース
8 月	6日(火)～8日(木)	5軸加工コース
9 月	10日(火)～12日(木)	高速・高精度コース
10 月	8日(火)～10日(木)	5軸加工コース
11 月	12日(火)～15日(金)	マクロコース
12 月	10日(火)～12日(木)	5軸加工コース

※お申し込みは各営業所までお願いします。  
※日程や内容は予告なく変更となる場合がございます、お申し込みの際にご確認下さい。

## 3 松浦機械OB会を開催



▲ OBの皆さんの集合写真

10/15(日)に第12回 松浦機械OB会が開催されました。昨年はコロナの影響もあり10名での開催でしたが、今年は倍となる20名のマツウラOBの皆さんが参加されました。

## 4 会社見学の受入



▲ 市内4校の合同見学の様子

マツウラでは地域学生へのキャリア教育支援の一環として、会社見学を常時受け付けております。10月から12月は小学校～高校まで計8校にご来社頂きました。

## 本号の書き終わり

- \* 11月度の工作機械受注額は速報値にて1,159億円(前月比103%)と、2か月連続で1,200億円を下回りました。内需は327億円(前月比97%)と、前月比で2か月連続減少かつ350億円割れとなり、2023年最低額となりました。外需は832億円(前月比106%)と2か月ぶりの800億円超えとなり、ほぼ横ばいとなる推移を維持しています。
- \* 新卒人材採用のためのPR活動として、昨年10月より3か月間にわたってテレビ

CM放映を実施いたしました。マツウラが「若手社員が多様な分野で活躍できる会社」であることを、就職活動を控える学生や保護者の皆さまにイメージして頂けるよう、若手社員が様々な部署で実際に働く様子をふんだんに盛り込んだCMといたしました。今回のテレビCM放映の他にも、本年度はリクルートホームページの拡充を予定しており、新たなオリジナルキャラクターを活用した採用PRを展開してまいります。採用活動においても「選ばれる理由にこだわる」のコンセプトのもと、引き続き様々なかたちでのPR活動を実施してまいります。

- \* 昨年から新型コロナウイルスによる影響が小さくなり、社内イベントなどコロナ禍以前とほぼ同様に行えるようになりました。2023年を振り返ると、伊達公子さんトークショーや4年ぶりのMatsauraオープンハウス、MECT2023などの様々な方に会い、交流する機会が戻ってきました。マツウラNEWSでは、これらの機会も含め今後も当社の情報をお伝えしてまいります。本年も引き続きご愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。